

会 議 録

会議名	辰野町商工業振興審議会		
開催日時	令和4年9月26日(月)10時00分から		
場 所	辰野町役場 第3・4会議室		
出席者 (敬称略)	辰野町議会議員 総務産業常任委員会 委員長 池田 睦夫	審議委員	6名
	辰野町商工会 会長 檀原 隆宣(会長)		
	辰野町商工会 商業部会 部会長 赤羽 孝志		
	辰野町商工会 女性部 部長 山寺 正子		
	八十二銀行 辰野支店 支店長 竹内 正明		
	アルプス中央信用金庫 辰野支店 支店長 兼 宮木支店 支店長 尾名高 裕志		
	辰野町 町長 武居 保男	辰野町	5名
	産業振興課 事業者緊急支援担当 課長 岡田 圭助		
	産業振興課 商工振興係 係長 野澤 隆生		
	産業振興課 企業相談員 金澤 重雄		
	産業振興課 企業相談員 丸山 六男		
欠席者 (敬称略)	辰野町商工会 副会長 三宅 正士		3名
	辰野町商工会 工業部会 部会長 秋山 良雄		
	辰野町商工会 女性部 副部長 小澤 幸子		
会議次第	1.開会 2.町長あいさつ 3.会長あいさつ 4.協議事項 (1) 令和3年度商工業振興事業報告と令和4年度商工業振興事業経過について (2) 辰野町商工業誘致及び振興補助金について (3) その他 5.閉会		
配布資料	別紙のとおり		

<p>会議結果</p>	<p>4.協議事項</p> <p>(1)令和3年度商工業振興事業報告と令和4年度商工業振興事業経過について 説明 ○質疑応答 なし</p> <p>(2)辰野町商工業誘致及び振興補助金について 説明 ○質疑応答 なし</p> <p>(3)その他（意見交換） 事務局（秋山委員に代わり製造業の状況報告）</p> <p style="padding-left: 40px;">辰野町には中小合わせて140社ほどあり、社長以下従業員が1人という会社が50社ほどある。50社の一番の課題は後継者がいないこと。社長が元気なうちは行すが、取引先に迷惑にならないように事業を閉じるように聞いている。</p> <p style="padding-left: 40px;">原材料費の値上がりを価格に転嫁できず原価割れの仕事もあるよう。10名以上の会社は設備投資も行いながら取引先にこたえられるように頑張っている。</p> <p style="padding-left: 40px;">長野県産業振興機構から仕事が紹介されてきているが、価格が合わず受注に結び付かないことが多い。</p> <p style="padding-left: 40px;">今年度は受注開拓を目的に、諏訪圏工業メッセとメッセナゴヤに数社出展してもらう予定。</p> <p>壇原委員</p> <p style="padding-left: 40px;">建設業については昨年の災害復旧と国交省の国土強靱化により工事量は普段に比べて3倍ほど出ている。</p> <p style="padding-left: 40px;">建設業の従業員が減っているため仕事は多くあるが、入札に参加できない状況がある。人手不足が足かせとなっている。上伊那の中で辰野町では多くの工事発注が出ているが、辰野町の業者が受注しているのは2/5ほどで3/5は上伊那の他町村の業者が受注している。辰野町の仕事を中心にしているので県の仕事には手が回らない。長野県では災害復旧工事が多く、下請け業者を探しても見つからない。</p> <p style="padding-left: 40px;">建設業者は仕事が多く、困っていることはない。町にはできるだけ平常発注してもらい災害復旧以外のものについては可能な範囲で遅らせてほしい。</p> <p style="padding-left: 40px;">一つの道路で複数の工事が重なると仕事ができないので、配慮をお願いしたい。</p> <p style="padding-left: 40px;">1人や2人の企業では後継者についてのマッチングが難しく、廃業になるのでは。従業員が4人から20人になると従業員の生活があるので、簡単には廃業ができないので金融機関のネットワークや業界の組合、団体等が</p>
-------------	--

後継者のマッチングを進めている。建設業やサービス業はマッチングしやすいが、製造業は技能者なので難しい。農業関係は支援が大きいのと自然に接したいといったことで後継者が見つかりやすい。製造業者のバックアップが必要と思っている。

インボイス制度では課税売上高が1000万円以下であっても適格請求書を発行しないと取引先から消費税分の値引きを求められたりすることがある。取引先から適格請求書を求められるところにはインボイス発行事業所の登録を受けてほしい。事業実態によっては消費税10%分が利益になるので、インボイス発行事業者の登録を受けるか否かについてのアドバイスも行ってゆきたい。

商工会の人員は減ったが、改革を行って実践型の事務局にした。11月1日からバックアップの体制を作りたい。今まで以上に経営支援に重点をおいた。県からの職員を減らし、地元採用の職員で活動を行う予定である。

池田委員

議会としては、商工業の活性化がキーだと思っている。議会でも発言しているが、町全体が稼ぐ力を追求していかなければと思っている。商工業としてはコロナ、ウクライナ、燃料の高騰、円安など今までにない厳しい状況が到来している。そういった中で、色々アイデアを出して、一人では難しいので協力や連携しあうことで進んでゆければと思う。

コロナに対してどのように対応していけばよいか悩ましいところであるが、議会としても皆さんの力になれるよう町にアドバイスをしてゆきたいと考えているので、意見をもらえればと思っている。

赤羽委員

皆さんが慣れてしまったのか、去年ほど大変だという話は届いていない。毎年悪いので諦めているのか、このようなものではないかということで届いていないのかとも感じている。円安やロックダウンなどの要因により物価が上がり、価格転嫁も難しいこともあり、実際には大変なのではないかと思う。

プレミアム付商品券の発行はありがたい。去年は土日にプレミアム付商品券の販売がなかったので購入できなかったという方がいたが、今年は土日の販売もあるのでよかった。去年は1万部発行で有効期限が3か月であったが、今回は2万部の発行で有効期限が4か月となりよかった。昨年よりも今回のほうが効果的と思うので、これからも協力を期待したい。

飲食関係への補助や援助はかなり厚くなっている。個店でも売り上げを維持するための新たな販促を行っているところがあり、新しい取り組みに対する援助があるとよい。

ウイズコロナの中で少しでも多くの行事を復活させて町を元気にしたいと動いている。少しでも良いので、そのような取り組みに自由に使える予算があるとよいので、検討願いたい。

山寺委員

女性部はコロナ禍の中で引き継いできたのでこれといって変わったことはない。ほたる祭りに五平餅を販売できてよかった。自身は居酒屋を営んでいて助成金があって助かっている。辰野町料飲店組合には組合費を免除してもらっている。

コロナウイルス感染者数により予約のキャンセルがある。少しずつは戻ってきているが、予約なしでの客はほとんどなくテイクアウトや家飲みが増えていて、このままになっては困る。物価が上がっている中で、値上げも考えるが企業努力でお財布に優しい値段のままでいきたいと考えている。コロナウイルス感染症の収束を待っているしかないと思っている。

辰野町で22年営業している。自分の好きなことをやりながらお客さんに喜んでもらえたらいいと思っている。商店の人たちもお客が来なくて困るといいながらも毎日電気をつけていて、おしほりをみてもそれなりにお客が入っていると感じている。皆さんが一生懸命頑張っている姿に、自分たちも頑張らなければと思う。あと何年できるかわからないが、お客さんの顔を見ながら頑張っていきたい。

竹内委員

足もとの融資についての相談自体は落ち着いていて駆け込みはない。町の制度資金の利用実績の説明があったように設備投資については維持更新がメインであり少し増えている。運転資金については間に合っているところがあり、前向きな資金はこれからである。資金繰りについてはこれまでに導入した資金の効果で持ちこたえている。予防的に導入したお客様が多かった。まだ利子補給は続いているが、据え置き期間がなくなって返済期間を増やしたくないということで返済する方が出てきている。二極化していて、まだ回復していないお客様については、資金を導入して元金据え置き、条件変更など状況に合わせて対応している。

足もとでは原材料高や人手不足のなかで何か手を入れていかなくてはいけないと感じている。

後継者については、課題を感じている経営者からの相談はある。金融機関は情報とネットワークが強みではあるが、単独では難しく町や商工会と連携する必要性を感じている。具体的には申し上げにくい、マッチングについては、このままでは廃業という方と本業プラス新しいことをやってみたい方が連携を模索している事例がある。マッチングを図るとき、業績が

よくない企業への支援は難しい。銀行の方もファンドや融資による資金的な援助は検討するが、事業承継に係る雇用の喪失や空洞化を阻止することを目的とした補助金や支援金の制度があるとよい。

原材料高については何ともしがたいところがある。

人手不足についてはDXでといわれていますが、弊行でも10月から中小企業でも使い勝手の良いクラウドサービスの取次を行っている。人を紹介してほしいとの相談はあるが、すぐに対応するのは難しいので、間接的な裏方の仕事を減らすことをお手伝いできればと思っている。直接的な生産にかかわる人材の確保についても関連会社や店舗間で情報交換をしながらやっているが解決策が見いだせないでいる。

町の空き家バンクの制度に「さかさま不動産」をいれて、創業したい人と不動産を貸したい方をマッチングさせるというスキームが立ち上がったと承知している。そういった取り組みには私どもも携わっていきたいと思っている。創業の種に対して事業計画や資金については支援可能なので、相談してほしい。

尾名高委員

令和2年度、コロナに対して不測の事態備えるということで皆さんに借入をしてもらったことがあった。令和3年、令和4年と経過してゆくにつれてその資金が滞留しているということで、なかなか運転資金の要望がないという実態である。ここで据え置き期間が終わり、条件変更とうについて金融機関のハードルが高いのではという話もあったが、金融機関としては相談を中心にやっているので、敷居が高いと思われぬように足もとの支援をやっていきたいと思う。渉外担当や内部にいる職員の誰でもよいので、相談してほしい。

現在の状況はコロナ慣れしているとの話があったが、ウクライナ、円安、原油高が絡み合っていて、コロナが解決すればよいといった状況ではなくなっている。原材料の高騰については価格転嫁できるお客さんもいるが、電力の高騰や石油製品の梱包材といったものまでは価格転嫁できずに、持ち出しになっている。辰野町の皆様、経営者の皆様を中心に頑張っている。一般個人のお話しをすると、所得の低下によって住宅ローンの返済ができないお客さんはほとんどいなかった。これは経営者の皆さんの努力で自社の借入れをしたりして従業員を守ったといったことによると感じている。

ウイズコロナということでいろんなイベントが始まってきているが、一方で人が出たがらないこともある。それについては金融機関としてどういった支援をしていけるのか考えながらやっていきたい。

金融機関の立場として最大限の努力をして町の皆様や事業者の皆様には敷居が高いと思われないように相談されやすい環境を作っていきたいと思っている。

5.閉会

11 : 20 終了